

**2013年12月7日 13-16時**

**第1回周術期危機管理セミナー@大阪医科大学中央手術室**

**—気道管理編— 報告書**

大阪医科大学麻酔科学教室助教 駒澤伸泰  
(医療技能シミュレーション室副室長)

今回、大阪医科大学附属病院中央手術室で麻酔科医、初期臨床研修医、手術部看護師が参加した周術期医療チームとしての気道管理トレーニングセミナーを実施しましたのでその概要を紹介させていただきます。

セミナーは2013年12月7日に大阪医科大学附属病院中央手術室にて開催し、麻酔科医6名、初期臨床研修医2名、手術室看護師15名が参加しました。コメンテーターとして、南教授にも参加をいただきました。インストラクターは私駒澤と藤原俊介助教（医療プロフェッショナル支援室副室長）が勤めさせていただきました。

このセミナーを開催した目的は緊急時気道確保や困難気道管理症例に対し、手術室スタッフとのチームワークを大切にし、訓練を行うことです。そして、i-gelやair-Qなどの新規声門上器具を日常的に訓練しておくことが緊急時の対応に役立つと考えたからです。

手術室内で院内受講者を対象とした気道管理セミナーの内容は、①米国麻酔学会困難気道ガイドラインの紹介、②マネキンを用いたi-gel, air-Q、エアウェイスコープ、ガムエラスティックブジー等の気道管理補助デバイスのハンズオントレーニング、③困難気道管理に関する知識・技術・判断能力を統合するためシミュレーターを用いたシナリオトレーニング、を基本としました。手術室看護師の皆さんにも声門上器具やエアウェイスコープを使用してもらうことで緊急時の介助に役立つと思いました。

実際の手術室で麻酔科医と看護師協力して常に発生しうる困難気道管理へ対応する能力の向上と評価が重要です。実際の手術室や麻酔器を使用することでシミュレーショントレーニングの臨場感が得られ、緊急時対応能力向上に寄与すると考えます。

開会の挨拶 南敏明 医療総合研修センター長



手術室内でのトレーニング



air-Q などの挿管用声門上器具の訓練



## LMA-Supreme の訓練



間接声門視認型喉頭鏡エアウェイスコープのハンズオン



声門上器具 i-gel のトレーニング



## シナリオトレーニング



## 藤原俊介医療プロフェッショナル支援室副室長による総括



## 集合写真

